

生涯研修プログラム クリニカルレクチャーシリーズ

9) 子宮肉腫：診療上の問題点

岩手医科大学教授 杉 山 徹

肉腫は難治性悪性腫瘍であり、子宮肉腫も例外ではなく、いまだ標準的治療法は確立していない。発生頻度が全子宮悪性腫瘍の2~6%と稀な腫瘍であるため大規模前方視的検討が困難であることに起因する。同様に、術前診断も試行錯誤の状態であり、MRIやPETなどの画像診断やガイド下での組織診、腫瘍マーカーでの検討が進んでいる。コスト面も含めて効率的な診断指針を確立する必要がある。頻度順に、癌肉腫(carcinosarcoma:CS)、平滑筋肉腫(leiomyosarcoma:LMS)、子宮内膜間質肉腫(endometrial stromal sarcoma:ESS)に大別される。比較的頻度の高いCSは、クロナリティー解析より子宮内膜由来の発生が90%を占め、その取り扱い低分化子宮内膜癌に

準じる。化学療法としてGOG試験結果より、ifosfamide+paclitaxel療法が推奨される。本邦ではpaclitaxel+carboplatin療法で良好な奏効率が得られ、米国でも第2相試験(GOG232B)が行われている。一方、LMSに対する化学療法は、有効な薬剤が不明のままである。docetaxel+gemcitabine療法にて高い奏効率(53%)が報告されている。VEGF, PDGF, bFGFなどの血管新生因子および、同レセプターのtyrosine kinaseをtargetとした分子標的薬と抗がん剤との併用療法も検討されている。ESSは、ホルモン依存性腫瘍であり、MPAが奏効する症例が報告されているが、有効な化学療法は不明である。局所コントロールとしての放射線治療の有効性の報告がある。

10) 産婦人科領域での補完代替医療

金沢大学補完代替医療学教授 鈴木 信 孝

補完代替医療は、近年急速に脚光を浴びてきた医学分野であり、Complementary and Alternative Medicine (CAM) という用語が使われている。CAMには、各種伝統医学、食事療法、サプリメント(健康補助食品)、ハーブ療法、アロマセラピー、鍼灸、指圧、気功、磁気治療、免疫療法、精神・心理療法、運動療法、温泉療法、芸術療法、園芸療法、音楽療法等々すべてが包含されている。最近の調査では、実際に日本で使用されているCAMのなかでは、サプリメントが最も多いことが知られている。したがって、本レクチャーでは、産婦人科領域に関係したサプリメントを中心に解説する。具体的には、更年期障害患者がよく使用

している大豆イソフラボンやブラックコホシなどの植物性エストロゲンや、厚生労働省の「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班が作成した「がんの補完代替医療ガイドブック」に沿って、がん患者が使用する頻度が高いとされるアガリクス、プロポリス、AHCCなどの食品素材について述べる。さらに、米国NIHのNCCAM(国立補完代替医療センター)で行われているサプリメントの臨床試験についても言及し、欧米で人気の高いハーブであるイチヨウ葉エキス、セント・ジョーンズ・ワート、ミルクシスル、ガーリック、高麗ニンジン、ピクノジェノール等についても解説する。